



松林小だより

平成30年7月20日
学校便り No.5
羽村市立松林小学校

東京都羽村市羽4122-2 電話 042-554-7800

～充実した「夏休み」を～

校長 瀬戸 隆幸

今日で前期前半が無事終了しました。日数にして71日ですが、あっという間だったように思えます。これまで、子供たちは、一人一人が自分のめあてをもって学習や運動、生活に取り組んできました。高学年の子供たちは、「松林小学校をもっとよい学校にする」という自覚と責任をもって、いろいろなことにチャレンジする姿、自分の課題達成に向け一生懸命に頑張る姿がたくさん見られました。

明日から子供たちが楽しみにしている夏休みに入ります。37日間という長い休みですので、生活のリズムをこわさないよう、まずは規則正しい生活（早寝、早起き、朝ご飯）を心がけ、夏休みにしかできない挑戦をして、楽しい思い出をたくさん作ってほしいと願っています。せっかくの長期休業ですから、普段ではなかなか経験できないことを体験できるとよいですね。どこかに出かけるのもよし、家庭生活の中でいろいろとチャレンジしてみるのもよし、こんなことをやってみたいと「考え」「行動する」ことに意味があると考えます。

普段と違った体験をする中で、いろいろな人との出会いが待っています。最近、地域の方から「子供たちの挨拶がよくなっている」というお褒めの言葉をいただきます。挨拶を通して人とつながり、新しいことに気付きながら、また一つ成長してほしいものです。

ただ、夏休みに入ると気分が開放的になりがちですので、「学校のきまり」をしっかり守って生活するように、お声かけをよろしくお願ひします。子供の「自主性」に任せるといって「お任せ」状態にしておくと、思わぬところで落とし穴があるかもしれません。「自主性」は子供たちに身に付けさせたい力ではありますが、まだ「声かけ」「見守り」と「見届け」が必要な時期です。声かけをしながら、「誉めて」「認めて」その後の様子を「見届け」てあげてください。ある時、本で読んだ「子育て4訓」を紹介します。

【子育て4訓】

- 1 乳児はしっかり肌を離すな
- 2 幼児は肌を離せ、手を離すな
- 3 少年は手を離せ、目を離すな
- 4 青年は目を離せ、心を離すな



小学生の子供たちは、「肌を離せ、手を離すな」「手を離せ、目を離すな」の時期になるのでしょうか。それぞれの子供の成長過程で、親として子供と向き合い、共に成長することを求められている言葉のように感じます。子育ては、この四つの言葉で言い尽くせるものではありません。ただ、自分の子育てを見直すヒントになる言葉かもしれません。子供と接する時間が増える夏休みだからこそ、子供たちとの関係についてこの言葉を参考に考えてみていただければ幸いです。

また、夏休み期間中、毎年、テレビや新聞などで、子供たちの交通事故や水難事故、誘拐などに遭って命を落とすといったたいましいニュースを耳にします。特に夏休みに入った最初の1週間に事故が多発します。子供たちには、自分の身は自分で守るという意識をもつこと、頭で分かっていることを行動にうつすことを発達段階に応じて各学年で指導し夏休みを迎えさせています。ご家庭でも「夏休みの生活について」をお子さんと一緒に読み返していただき、楽しく安全な夏休みを過ごさせていただければと思います。8月27日には、200人全員が、一回りたくましく成長した姿で、元気な顔を見せてほしいと願っています。一人一人の子供たちが、充実した夏休みを送ることができることを期待しております。

最後になりましたが、大きなけがや事故もなく、子供たちが元気で無事に夏休みを迎えることができたのも保護者の皆様、地域の方々、そして、子供たちの安全を見守ってくださった多くの皆様のお陰だと感謝しております。本当にありがとうございました。夏休み期間中も、引き続きよろしくお願ひいたします。